

第4回新型コロナウイルス感染の広がりに関する景気動向調査の分析結果

2020/09/18

1. 調査の概要（景気動向調査への協力依頼について（お願い））

霊枢（れいきゅう）事業者を除いてFAXで調査可能な会員事業所546事業所に、

- ① 【設問3】 R2年6、7月、8の売り上げ（対前年同期比）
- ② 【設問4】 R2年9月以降（9月～11月）の売り上げ見込み
- ③ 【設問5】 荷主からの値下げ交渉

について、アンケート調査を実施（9月3日～18日）

2. 全体基調（資料1）

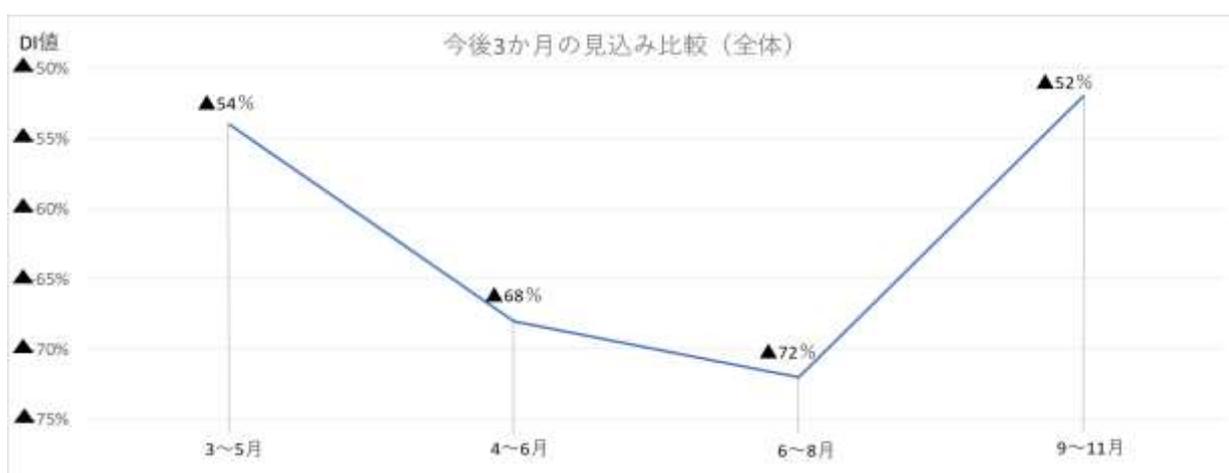
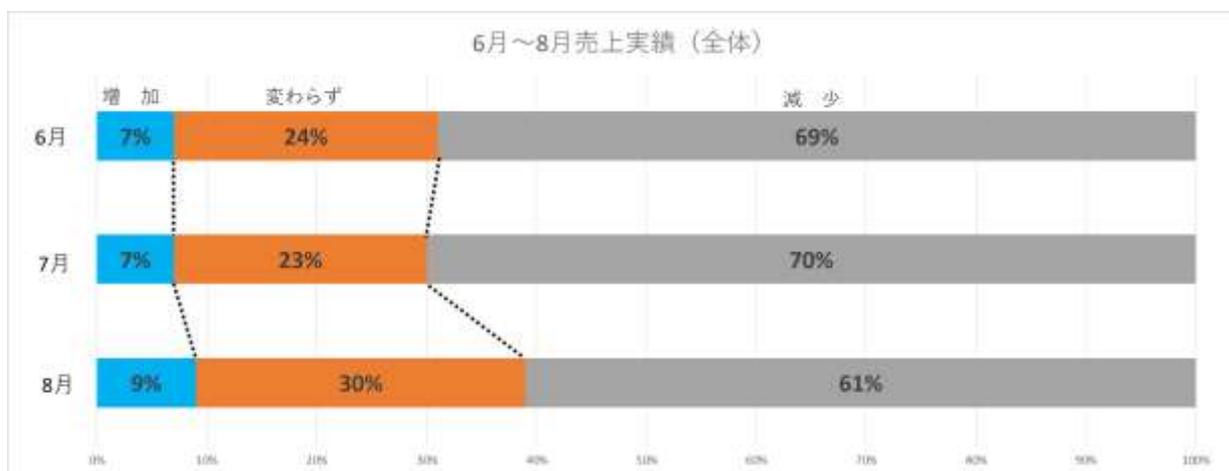
546事業所中、242事業所から回答があった。（回収率44.3%）

【設問3】の6月の売り上げでは、「上昇-減少」（以下「DI」という。）が▲62ポイント、7月の売り上げでは、DIが▲63ポイント、8月の売り上げでは、DIが▲52ポイントとなった。

前回調査（6月から8月見込み（DIは▲72ポイント））に比べ6月の売り上げは見込みに比べ、10ポイント高く、7月は、9ポイント高く、8月は20ポイント高くなっており、徐々にではあるが回復の傾向が見られる。

【設問4】の9月以降の先行きについては、DIが▲52ポイントで、前回調査時より20ポイント高く、上記と同様にコロナウイルスの影響は徐々に減少していくと考えられる。

【設問5】の荷主企業からの値下げ交渉については、18%の事業所で交渉があった。



3. 輸送品目別による前回調査との比較（資料2：6月、7月、8月売から）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別について「前回調査の6～8月見込み」と「今回調査の6月、7月、8月売上」を比較した結果は、以下のとおり（前回調査：今回調査）

- ① 木材を主に輸送する事業所
6月売上 － D Iは32ポイント良かった。（▲82：▲50）
7月売上 － D Iは 3ポイント良かった。（▲82：▲79）
8月売上 － D Iは19ポイント良かった。（▲82：▲63）
- ② ダンプを主に利用する事業所
6月売上 － D Iは 4ポイント悪かった。（▲59：▲63）
7月売上 － D Iは 4ポイント良かった。（▲59：▲55）
8月売上 － D Iは11ポイント良かった。（▲59：▲48）
- ③ 工業品を主に輸送する事業所
6月売上 － D Iは 9ポイント良かった。（▲89：▲80）
7月売上 － D Iは 7ポイント良かった。（▲89：▲82）
8月売上 － D Iは16ポイント良かった。（▲89：▲73）
- ④ 食料品を主に輸送する事業所
6月売上 － D Iは 7ポイント良かった。（▲66：▲59）
7月売上 － D Iは10ポイント良かった。（▲66：▲56）
8月売上 － D Iは10ポイント良かった。（▲66：▲56）
- ⑤ 雑貨・宅配の事業所
6月売上 － D Iは18ポイント良かった。（▲76：▲58）
7月売上 － D Iは22ポイント良かった。（▲76：▲54）
8月売上 － D Iは11ポイント良かった。（▲76：▲65）
- ⑥ タンクローリーなどの事業所
6月売上 － D Iは 3ポイント悪かった。（▲72：▲75）
7月売上 － D Iは17ポイント良かった。（▲72：▲55）
8月売上 － D Iは 3ポイント悪かった。（▲72：▲75）
- ⑦ 鉄鋼・重量物を主に輸送する事業所
6月売上 － D Iは10ポイント良かった。（▲96：▲86）
7月売上 － D Iは 5ポイント良かった。（▲96：▲91）
8月売上 － D Iは19ポイント良かった。（▲96：▲77）
- ⑧ 資料2の「減少率」の割合をみると、6月実績は、工業品と鉄鋼・重量がともに86%と特に悪い。7月実績では、6月の両業種に加えて、木材が79%と悪い。8月実績では、工業品、鉄鋼・重量品に加えてタンクローリーが81%と悪い。
減少率の割合が高い輸送品目は、いずれも主に製造業に関わるものである。国内外の製造物の需要が減少していることが影響していると考えられる。
- ⑨ 前回調査時と比較すると、各月ともに全業種でほぼ見込みどおりか見込みよりも良い結果となった。

4. 輸送品目別による見通し（資料2：9月以降の見通しから）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別についての分析結果は、以下のとおり

- ① タンクローリーなどの事業所 － D Iは▲87ポイントと大変厳しい結果
- ② 工業品を主に輸送する事業所 － D Iは▲80ポイントと大変厳しい結果
- ③ 雑貨・宅配の事業所 － D Iは▲67ポイント
- ④ 食料品を主に輸送する事業所 － D Iは▲64ポイント

- ⑤ 鉄鋼・重量物を主に輸送する事業所 — D Iは▲64ポイント
- ⑥ 木材を主に輸送する事業所 — D Iは▲50ポイント
- ⑦ ダンプを主に使用する事業所 — D Iは▲40ポイント
- ⑧ タンクローリーと工業品が他品目に比べ厳しい冷え込みとなっている。
- ⑨ 前回調査と比較すると、鉄鋼・重量（前回：▲96）で、特に回復傾向が見られた。

5. 輸送品目別による荷主からの値下げ交渉（資料3：値下げ率から）

値下げ交渉率は、宅配・雑貨で34%と最も高く、次に食料品の30%、続いて工業品と鉄鋼・重量の23%となっている。

コロナ禍の影響による荷主企業からの値下げ交渉は、今後も続くと考えられる。

6. 地域別による前回調査との比較（資料3：6月、7月、8月売上から）

6地域における「前回調査の6～8月見込み」と「今回調査の6月、7月、8月売上」を比較した結果は、以下のとおり（前回調査：今回調査）

① 大分西地域	6月売上	— D Iは18ポイント良かった。	(▲81 : ▲63)
	7月売上	— D Iは20ポイント良かった。	(▲81 : ▲61)
	8月売上	— D Iは16ポイント良かった。	(▲81 : ▲65)
② 大分東地域	6月売上	— D Iは19ポイント良かった。	(▲76 : ▲57)
	7月売上	— D Iは18ポイント良かった。	(▲76 : ▲58)
	8月売上	— D Iは21ポイント良かった。	(▲76 : ▲55)
③ 別 杵地域	6月売上	— D Iは13ポイント良かった。	(▲100 : ▲87)
	7月売上	— D Iは13ポイント良かった。	(▲100 : ▲87)
	8月売上	— D Iは27ポイント良かった。	(▲100 : ▲73)
④ 県 北地域	6月売上	— D Iは16ポイント悪かった。	(▲58 : ▲74)
	7月売上	— D Iは17ポイント悪かった。	(▲58 : ▲75)
	8月売上	— D Iは 5ポイント悪かった。	(▲58 : ▲63)
⑤ 西 部地域	6月売上	— D Iは14ポイント良かった。	(▲73 : ▲59)
	7月売上	— D Iは14ポイント良かった。	(▲73 : ▲59)
	8月売上	— D Iは28ポイント良かった。	(▲73 : ▲45)
⑥ 県 南地域	6月売上	— D Iは10ポイント良かった。	(▲60 : ▲50)
	7月売上	— D Iは 7ポイント良かった。	(▲60 : ▲53)
	8月売上	— D Iは12ポイント良かった。	(▲60 : ▲48)

⑦ 前回調査と比較すると、県北地域のみ見込みより悪く、その他地域では、見込みよりも良い結果となった。これは、県北地域では自動車関連の輸送が多く、一部自動車工場での製造再開の目途が立ったことによる期待感が先行していたためと考えられる。

⑧ 別杵地域は、6月と7月のD Iは▲87ポイント、9月のD Iは▲73ポイントと、他地域に比べ悪い結果となった。これは、観光業の冷え込みが要因だと考えられる。

7. 地域別による見通し（資料3：9月以降の見通しから）

6地域における大きな特徴は、以下のとおり

- ① 別杵地域のD Iは▲80ポイントと依然として悪く、コロナ禍の影響が長引くと考えている。これは、観光業の冷え込みが、関連業種に影響を及ぼしていると考えられる。
- ② 別杵地域に続いて悪いのが、大分東地区の▲69ポイント、外需による工業品の減少が要因だと考えられる。
- ③ 県北地域は、今回は▲36ポイントと最も先行きの見通しが良い。これは、県北地域で盛んな自動車製造業が通常稼働に戻りつつあることが要因だと考えられる。

8. 地域別による荷主からの値下げ交渉（資料3：9月以降の見通しから）

地域別の値下げ交渉率を見ると、別杵地区が33%と最も高く、続いて県北地域の27%が高い結果となった。コロナ禍で特に影響が出ていた地域で、交渉が多いと推測される。

9. 輸送品目別分類における時期的D Iの変化に対する考察（資料2から）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別の6月、7月、8月と9月以降の変化については、以下のとおり

- ① 6月の対前年比の売り上げに関するD Iは、▲50ポイント～▲86ポイント
- ② 7月の対前年比の売り上げに関するD Iは、▲54ポイント～▲91ポイントと**大幅に悪い**。
- ③ 8月の対前年比の売り上げに関するD Iは、▲48ポイント～▲77ポイント
- ④ 9月以降の先行きでは、▲40ポイント～▲87ポイントと幅が広い。
- ⑤ 全体的には、5月のピーク時以降、徐々に回復に向かっているが、工業品と鉄鋼・重量は、6月から8月の間D Iは▲73ポイント～▲91ポイントと非常に悪い結果となった。
また、9月以降の見通しでも工業品は▲80ポイントと非常に悪い。さらに、タンクローリーも7月に▲55ポイントと回復傾向が見られたが、9月以降の見通しは▲87ポイントと悪化している。製造業関連への影響は長期化すると考えていると思われる。
- ⑥ ダンプは9月以降の見通しでは▲40ポイントと最も良く、コロナ禍からの回復の兆しが見えていると考えられる。

10. 地域別における時期的D Iの変化に対する考察（資料3）

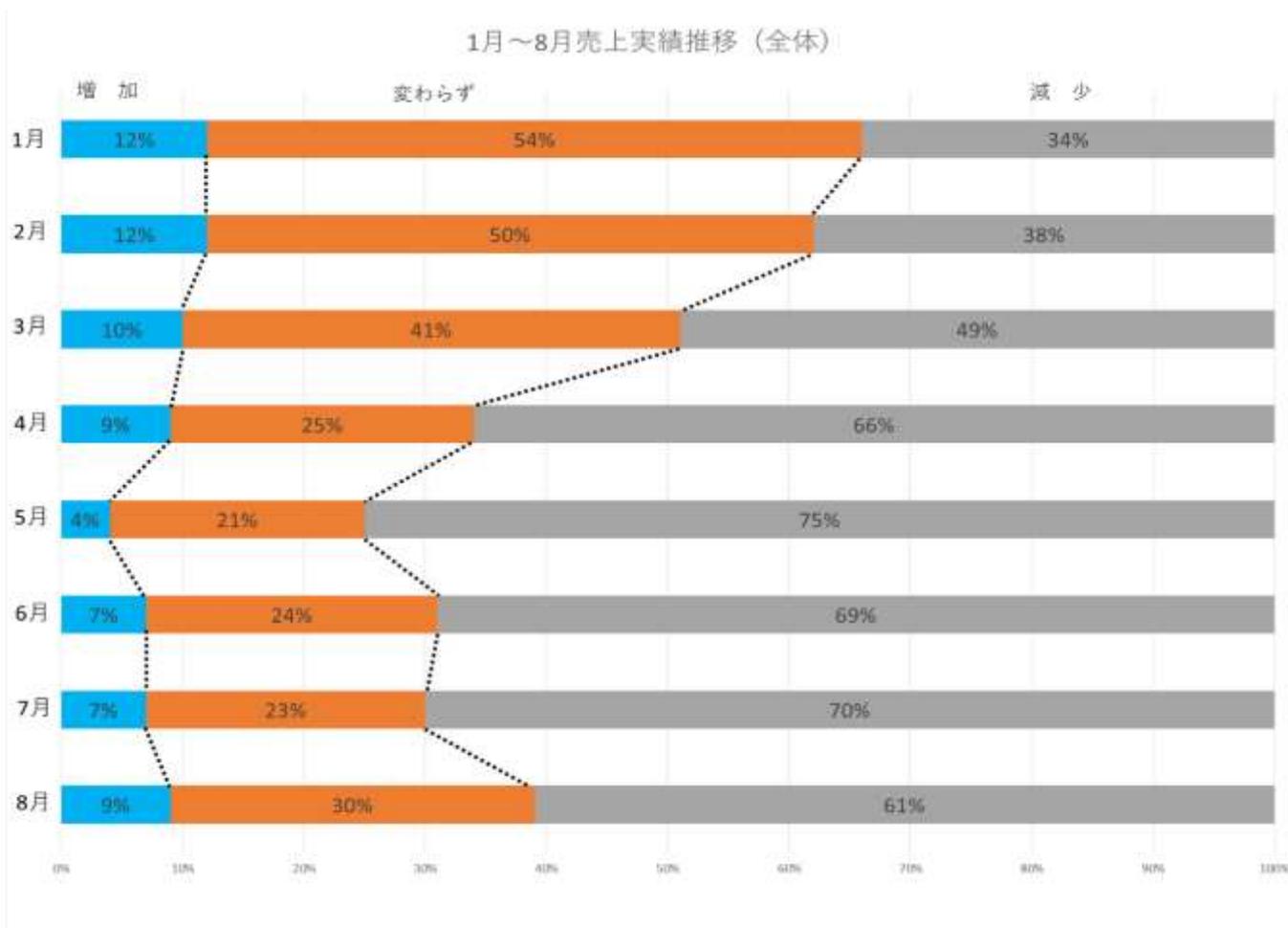
各地域において、6月、7月、8月と9月以降の変化については、以下のとおり

- ① 6月は各地域で▲50ポイント～▲87ポイント。
- ② 7月は各地域で▲53ポイント～▲87ポイント。
- ③ 8月は各地域で▲45ポイント～▲73ポイント。
- ④ 9月以降の先行きでは、▲36ポイント～▲80ポイントと幅が広い。
- ⑤ **別杵地域のD I**は、6月、7月が▲87ポイント、8月が▲73ポイント、9月以降については、▲80ポイントとなっており、他地域に比べて悪い結果となっている。
観光業界の冷え込みによる影響は長引くと予想される。
- ⑥ 県北地域は、9月以降の見通しが前回調査時と同様に全地域の中で最も良い。これは、自動車産業の再開が地域経済に与える影響への期待感が見通しに表れていると考えられる。

11. 調査結果を受けて

コロナウイルス感染症による物流への影響は5月をピークにわずかながら徐々に減少しつつある。7月は、第2波の影響から若干悪くなっているが、8月には再度減少し、9月以降の見通しでは（14頁資料1 設問④より）、調査開始以来最も見通しが良くなっている。

しかしながら、観光業関連の輸送や、外需による影響が大きい製造物関連の輸送は、未だ影響が大きく、先行きも悪い状況が続いている。



また、コロナウイルス感染症の影響は荷主企業にも大きく出ており、その結果、運送会社への値下げ交渉に繋がっている。今回調査時の段階で、全体の2割弱、地域や輸送品目によっては3割の事業者が値下げの交渉を受けている。

本年度は、4月に国土交通省から標準的な運賃が告示され、運送業界全体で運賃の改善を行っていかねばならないが、荷主企業の経営状況から値上げ交渉は出来ないとの意見もある。値上げ交渉が難しい状況であっても、将来のためにも標準的な告示運賃について荷主に対し根気強く行っていくことが必要である。

さらに、冬季の間にインフルエンザと併せての爆発的な流行も懸念されており、従業員への感染や経営に与える影響に対して警戒せざるを得ない状況が続いていくと予想される。

そこで、本協会では、会員事業者ときめ細かい情報交換を行い、感染症対策や人材確保に向けた取り組みを効果的かつタイムリーに実施していくものとする。